



自治会等と連携して、悩み事など戸別訪問調査を実施 「孤独・孤立に関する悩みごと調査」

孤独・孤立の予防・早期発見を行うとともに、生活課題にきめ細やかに対応するため、世代を限定せずに各家庭を訪問して「孤独・孤立に関する悩みごと調査」を実施し、結果がまとまりましたので報告します。なお、昨年は郵送調査と併用しましたが、今回は全て訪問して実施しました。

■調査の概要

◇調査期間：令和7年1月27日（月）～2月16日（日）

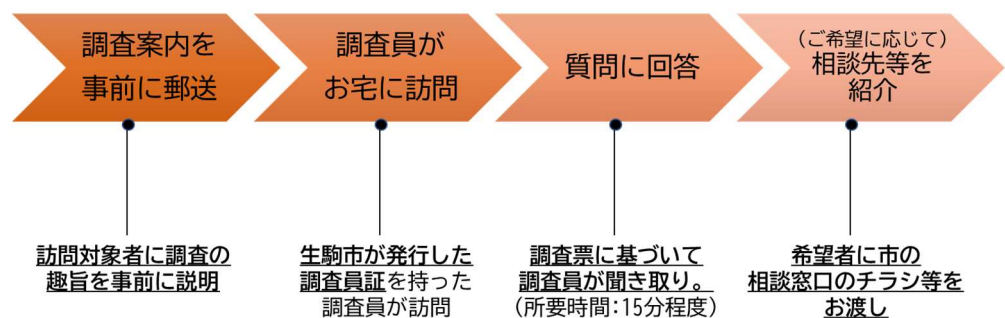
◇調査方法：訪問調査（101件）

◇対象地域：生駒台自治会の一部地域

◇訪問調査の主体：生駒台自治会と市又は阪奈中央地域包括支援センター職員がペアを組んで実施

◇調査結果の概要：裏面参照

◇訪問調査の流れ



■調査の特色

- ①市、自治会、地域包括支援センターの三者が連携
 - ②世代や属性を限定せず幅広い世帯が対象
- ・悩みごとの把握だけでなく、調査を通じて地域の関係性を創り、アンテナを高めることを目指す取組で、昨年2月に実施した谷田町での調査に続き2回目。前回の調査でも、自治会や地域包括支援センターにおいて「面識のなかった住民や地域のことを改めて知る契機となった」等の好影響がありました。
 - ・孤独・孤立対策に関する国のモデル事業においても、専門職がアウトリーチとして戸別訪問する事例はありますが、自治会に問題意識をもっていただき、市・地域包括支援センター・自治会の3者で協働してアウトリーチしている事例は珍しい取組です。
 - ・どんな困りごとでも丸ごと受け止める「いこまる相談窓口」の設置や、悩みごとの分類ごとに相談先を一覧化した「孤独・孤立支援ポータルサイト（ここぼ）」の運営をはじめ、「いばしょ支援ステーション GIFT」や「あなたのいばしょチャット相談」など多様な取組を進めていますが、やはり困っていることや悩み事を自発的に訴えることができない層が存在します。そうした自ら相談できない人の声をアウトリーチという形で、丁寧に拾い上げることを地域包括支援センターと共に行うことで、必要な情報の提供や必要な機関への接続、介入などが行えるメリットがあります。

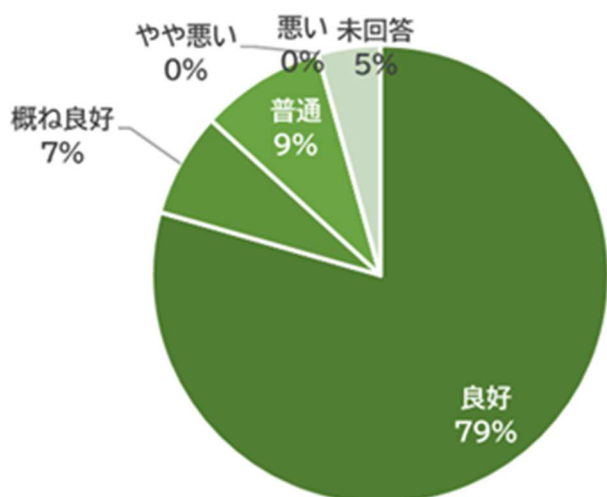
■調査結果の概要

◇回答率：訪問調査 67.3%（68 件／101 件）

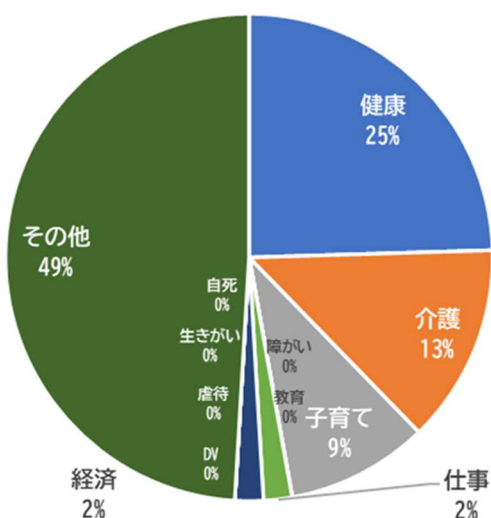
◇把握した悩みごと：介護の問題、空き家問題、迷惑電話、猫のフン、ごみ捨て場のごみ飽和等

◇悩みごとへの対応：すぐに対応が必要な緊急性の高い事案はありませんでした（別紙「重要度別分類」参照）。把握した様々な課題について、対応方法を自治会と共有し、自治会内で対応を検討しています。

■家族関係



■悩みの類型（重複回答）



（※） 聞き取り内容（一部）

- ・ 高齢になってきたので、健康について不安。腰痛や、目や耳の機能低下等。
- ・ 空き家が多く、不法侵入、不法投棄、景観の悪化等が心配。
- ・ 猫が住み着いているのか、フンが多くて困っている。
- ・ 迷惑電話が多く困っている。
- ・ 区画を分割して家が建っているので、ごみ捨て場があふれてしまわないか心配。
- ・ 今は車があるが、運転できなくなった時、交通の便（バス等）が悪いので不安。

■今後の展望

国の調査によると、満 16 歳以上の 40%以上の方が孤独・孤立を感じることがあるとされているなど、孤独・孤立は、世代を問わず誰にでも生じうる問題になっています。今回の調査では、対象とする世代や悩みごとの種類を限定せずに幅広く聞き取りを行ったため、住民一人ひとりの様々な悩みごとを把握することができました。

今回は、生駒台自治会の一部地域のみで調査を実施しましたが、得られた成果や課題を踏まえ、引き続き、より効果的なアウトリーチのあり方を検討・推進していきます。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市地域包括ケア推進課（課長補佐 齊藤） ☎0743-74-1111(内線 7551)